

- \* 「あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。」（ガラテヤ3：2）主イエスを信じて告白し、バプテスマを受ければ御霊を受ける。それ故「御霊を受ける」とは「救われる」、「義と認められる」と同じ意味である。それは律法を守ったからではなく、信仰をもって聞いたからだパウロは正している。「信仰をもって聞いた」とは、この文脈からすると、「聞いて信じた」ととるのが良い。
- \* 「ああ愚かなガラテヤ人。十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に、あんなにはっきり示されたのに、だれがあなたがたを迷わせたのですか。」（ガラテヤ3：1）パウロや他の使徒から福音を聞いて十字架の意味がはっきりわかったはずなのに、どうして律法を守らなければ救われないという昔に逆戻りしたのか、とパウロは嘆き、叱責する。イエス・キリストを信じるとは、イエスの十字架と復活を信じるということであり、十字架は本来義ではない私たちを義としてくださる「義認」の根拠である。  
私の前にも十字架に張り付けられたイエスがはっきりとあらわれただろうか。この罪びとである私のためにイエスは私の罪を負って十字架にかかってくださったのである。それを信じるだけでよい。それ以外の「律法を守ること」「行い」は救いには必要ない。
- \* 藤井圭子さんの証。彼女は医学の勉強をしていたが、「生と死」の問題の解決を仏教の中に見出せるのではないかと、尼僧になり、厳しい修行に励む。しかし、求めていたものはなく、そこにあったのは、人間の理性が到達し得る範囲内の悟り、真理であって、宇宙を貫いてなお存在する絶対的な真理ではなかった。絶望して元の小児科医として働き始めるが、家の隣に教会堂が建てられ、イエスを知る。御霊に導かれて信じ決心してクリスチャンになる。良くなかった夫との関係も解決し、感謝と喜びの人生に変えられ、その後次々と身内や周りの人たちが救われていった。（著書「悟りと救い」他より）
- \* 「律法を守る」ことや「良い行い」をすることは大切なことである。しかし、私たちは良い行い、正しい行いを完璧にすることはできない。信仰よりも良い行いを優先させると、いずれ挫折するか、高慢になるかどちらかである。イエス・キリストを信じる信仰をもつことにより与えられた御霊がよい行いに導いてくださるのである。「良い行いから信仰へ」ではなく、「信仰から良い行いへ」である。この順序が大切である。